

# SCARDAにおける 研究開発支援の基本的考え方(案)

令和3年12月6日

内閣府 健康・医療戦略推進事務局

# 産学官によるワクチン開発への戦略的なファイディング（案） —SCARDAにおける研究開発支援の基本的考え方—

## ワクチン戦略

### 2.2 戦略性を持った研究費のファイディング機能の強化 より抜粋

政府がAMEDを活用してワクチン開発を先導する仕組みの構築

平時も含めた長期的・安定的な研究の支援の必要性に加えて、緊急時には、今回米国国立衛生研究所（NIH）や米国生物学医学先端研究開発機構（BARDA）等において行われたように、ワクチン開発に有効と考えられるシーズ、モダリティを早い段階で見つけ、開発の進んだ研究機関、企業等を選定し、まとまった研究費を迅速かつ機動的にファイディングする機能が必要である。～（省略）

緊急時においては国策としてワクチン開発を迅速に推進するために、政府はAMED内に、平時からの研究開発を主導する体制を新設（先進的研究開発戦略センター「SCARDA（スカーダ）」（仮称））し、健康・医療戦略推進事務局主導のもと、各省の縦割りを排した一体的かつ機動的な予算の配分を通じ、新規モダリティの育成、感染症ワクチンへの応用（製造技術の検討、特殊製剤化技術（製剤の安定化、DDS等）の研究開発を含む）等を実施する。～（省略）

# 産学官によるワクチン開発への戦略的なファンディング（案） —SCARDAにおける研究開発支援の基本的考え方—

## SCARDAにおける研究開発支援の基本的考え方

### 目標

国が定める重点感染症に対して緊急時にいち早く、安全で有効な、国際的に貢献できるワクチンを国内外に届ける

さらに、利便性等に優れたワクチンの開発も期待

（例）

- ・ 副反応が少ないなど、より安心して利用できる
- ・ 保存性に優れる、投与方法が簡便である
- ・ 生産量の確保がしやすい、安価である

## SCARDAによるファンディングで実施すること

平時より長期的・安定的かつ戦略的に以下について産学官の連携による研究開発を支援する。緊急時には、迅速・機動的なファンディングで早期実用化を目指す。

- ① 重点感染症に対するワクチンの開発
- ② ワクチン開発に資する新規モダリティの研究開発

# ワクチン開発・生産体制強化戦略を踏まえた研究推進体制（案）

## SCARDAマネジメント

○AMED理事長直下で、平時、エビデンス集積（ワクチン開発）に向け、長期的な研究支援を戦略的に実施。  
○緊急時、適切なワクチンの迅速な開発の実現に向け迅速・機動的なファンディング。

